



進化する東京理科大MOT

2023年4月始動。MOT2.0からMOT3.0へ

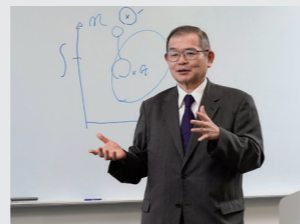
東京理科大学専門職大学院では、2018年度に経営学研究科技術経営専攻(MOT1.0)を開設。2020年度からはMOT1.0の課題を解決し、MOT2.0へとバージョンアップしました。その開発を推進し、2023年4月からMOT3.0を始動します。

Message

チャレンジなくしては時代を創出できない

世界は、50年か100年に一度のVUCAの時代を迎えています。しかし過去人類は危機の時代にイノベーションを生み出してきました。本専攻でもこの時代を更なる飛躍の時と捉え、絶え間なく社会の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、イノベーションを牽引できる人材を養成し輩出していきます。我々も、このコロナ禍では、自らも敏速かつ革新的

に対応、授業方法に挑戦しました。すなわち、他に先駆けて、対面・遠隔併用のハイブリッド型授業を開発し、旧来型の授業を進化させました。変化に応じた新たな科目も創り上げています。理工系総合大学として学生との連携も始めました。教員、事務一同、如何なる困難もチャンスと捉えて立ち向かうマインドが溢れ、『財』を創出する場である理科大MOTでご入学をお待ちしております。



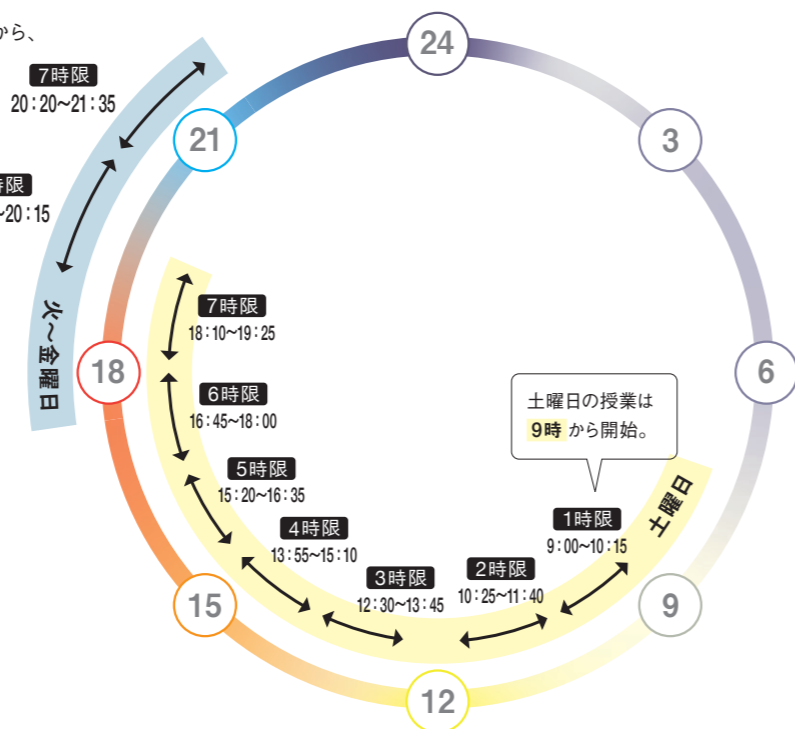
経営学研究科技術経営専攻専攻長
若林 秀樹

より社会人に適した学びの場に

通学しやすい時間帯

- MOT3.0の授業開講時間は、180分(1時限90分)・四半期8回から、150分(1時限75分)・四半期9回に変更します。

火～金曜日の授業は、学生の退社時間・通学時間を考慮して、**19時**から開始。



通学しやすい立地

- 授業を実施する神楽坂キャンパスの最寄りの駅は、鉄道5路線が交差する飯田橋駅となり、駅から徒歩5分以内の場所に学び舎があります。
- 【交通案内】
JR中央・総武線飯田橋駅西口より徒歩5分、
地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線飯田橋駅B3出口より徒歩1分

オンラインによる学修環境の提供

- 授業形態は、一部の授業を除き対面とオンラインのハイフレックスで受講が可能です。
- 授業で使用するオリジナル教材の配付やレポートの提出はオンラインで行うことができます。また、大学からのお知らせもオンラインで配信します。

修了生へのアフターフォローの活動

- 本専攻では、修了した学生のさらなる質の向上と社会に対する質保証を目的に「知の定期健康診断」を実施し、修了後の現況確認サポート体制を構築しています。

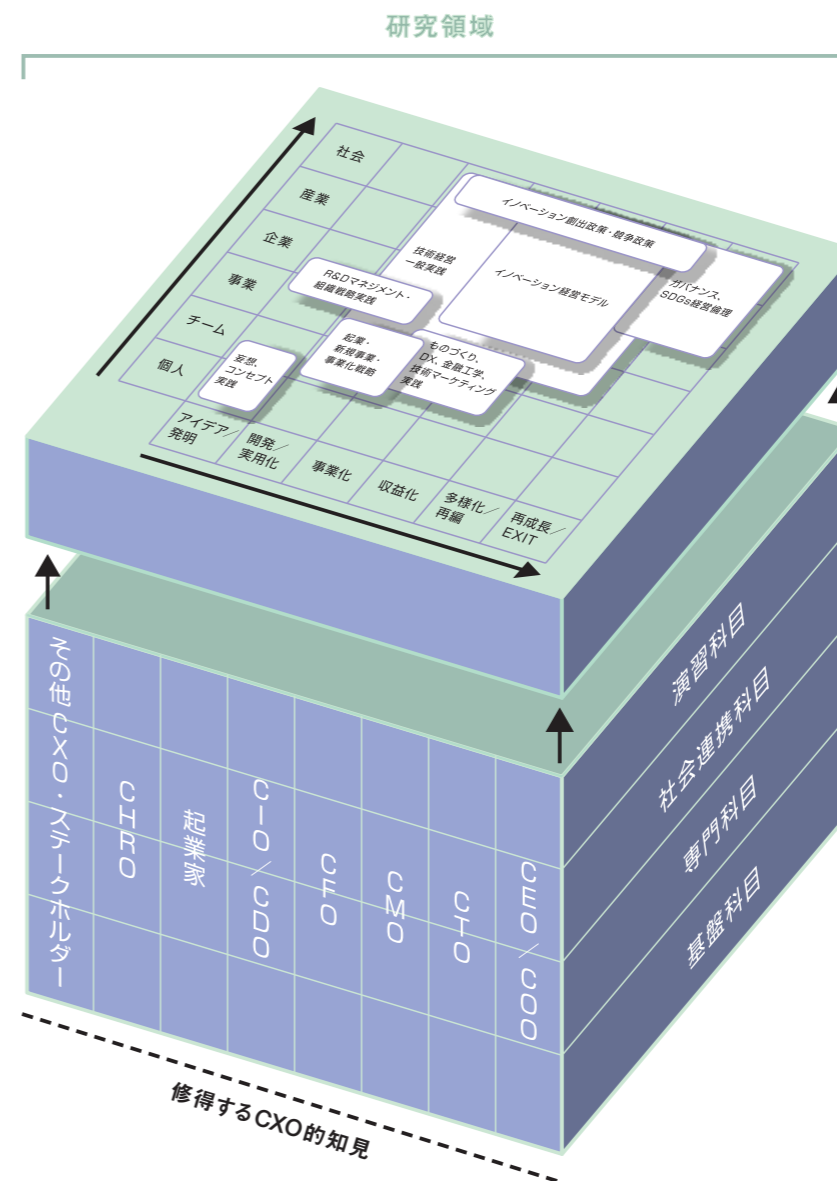
2022年度初年度納付金(年額)

入学金	授業料	施設設備費	合計
200,000円	1,170,000円	300,000円	1,670,000円

- 授業料、施設設備費は2回に分納できます。
- 2年次の授業料、施設設備費は1年次と同額となります。
- 上記の他、その他の納付金として学生傷害共済補償費を徴収します。
- 学校法人東京理科大学の設置する大学学部を卒業し、技術経営専攻に進学する者は、入学金を半額とします。

研究領域と教育領域の分離

- MOT2.0の教育研究領域は、MOT3.0からグラデュエーションペーパーのテーマになる研究領域と、CXOに必須な知見を得るための授業科目を配した教育領域に分離しました。



教育課程の再構築ポイント

- 科目区分を再構築。基礎科目とコア科目を統合して基盤科目に、トラック科目は廃止し、新たに専門科目を設け、教育領域を細分化し授業科目を配置しています。
- 演習科目以外の授業科目は、学生の多様性に合わせたオーダーメイド履修を可能にするため、授業科目を選択できるようになりました。



学生間の交流が生んだ 新たな視点

CKD株式会社はこれまでに3名が理科大MOTを修了し、
現在も2名が在学中です。本座談会では、同社代表取締役社長の
奥岡克仁氏をお招きして、若林専攻長が理科大MOTでの
学修成果による社員の成長と社内での実践について
お伺いするとともに、修了生3名に在学中の学びについて振り返っていただきました。

CKD CKD株式会社

1943年、「日本航空電機株式会社」として創業。1945年に電気機械器具の製造、修理、販売する「中京電機株式会社」に変更。1956年、空圧シリンダ、バルブなどの量産開始。1979年に社名を「シーケーディ株式会社」へ改称。「世界のFAトータルサプライヤー」を目指す、自動化技術のバイオニア企業。自動機械装置をはじめ、流体制御機器や空気圧制御機器など、多岐にわたる機能機器の開発・製造・販売・輸出を行う。その製品数は50万点に上り、国内はもちろん海外にも多くの顧客を有する。

くような実践的な学びが数多くありました。先生からの個別指導もありました。学生一人ひとりにきめ細やかな指導が受けられるとは思っていませんでした。

活発な議論と交流から新たな視点が生まれる

若林 では、授業で印象的だったことは何でしょうか？
鶴賀 すべての授業でグループワークがあり、学生同士で限らない回数の議論をしました。その経験は大きく、会社の会議でも、活発に意見を引き出して議論を広げていく場面と、ある程度で抑えながら収束に向けていく場面を感覚的に判断できるようになりました。
佐久間 「先端科学技術特別講義」では東京理科大学の理学部や工学部等の先生方6名の研究内容に予算配分し、場合によっては複数の先生の研究をまとめたり、EXITして売却することなどをグループディスカッションし、最終発表しました。さらには、その研究テーマで自社の事業とマッチするものはどんなものがあるかなどを議論しました。理科大ならではのプログラムで興味深かったですね。
鶴賀 私は愛知で勤務して、木曜日から土曜日まで

若林 理科大MOTでの学びを社内実践されている3人にお聞きします。理科大MOTに入学する前のイメージと、入ってから実際には、どのような違いがありましたか？
横枕 弊社で理科大MOTに入学したのは私が初めてでした。MBAのようにマーケティングなど売上拡大に必要なことを学ぶのだと思っていましたが、実際に入ってみると全く違って、ビジネスはもちろん、幅広い知識を学ぶことができました。さらに、さまざまな業種の学生たちと議論できたので、多角的な視点から物事を見られたのは大きな成果でした。
鶴賀 私は以前、MBAを修了しました。学術、ビジネス／実践、コンサルティングといった領域のうち、MBAではコンサルティングが中心でしたが、理科大MOTではビジネス／実践の側面を重視していると感じました。著名な経営者の講義が数多くありますし、授業を通じて得た知識や技術をいかにビジネスで活用するかという視点が強いと実感しました。
佐久間 理科大MOTについては先生が一方向的に講義をする授業が中心だと思い込んでいました。実際に入ってみると、学生同士の議論が中心で、学んだことを自分の会社の事業に落とし込んでい

異業種の同期との他流試合で 多角的な視点を体得

若林 毎年、理科大MOTに入学されているCKDのみなさんにお集まりいただきました。まず奥岡社長、理科大MOTで社員の方を学ばせる理由をお聞かせいただけますか？
奥岡 企業の成長戦略を描くうえで人材育成は一番の課題であり、弊社ではなかなか体系的な教育が整ってなかったため、理科大MOTへの社員の派遣を決めました。理科大MOTの本当の良さを感じるのには、実績を積まれた先生方の授業を受けられることや、さまざまな分野で事業を成し遂げた著名な経営者から直接お話を聞けることです。さらに、異職種・異業種の学生たちと議論と交流ができることです。私はあえて、「他流試合」と呼んでいます。会社の常識の外に出て、異なる企業文化や考え方に触れられるのは、理科大MOTの素晴らしいさだと思います。ここにいる3人は、理科大MOTでの学びを通じてコミュニケーション能力が格段に高まり、社内の議論でも多様な意見を引き出しながら、かつ、きちんと収束させています。他流試合の機会を得られたことは本当に感謝です。



奥岡克仁氏

CKD株式会社 代表取締役社長。
1991年入社。2015年執行役員コンポーネント本部長に就任。取締役執行役員、取締役常務執行役員を経て、2019年代表取締役専務執行役員管理担当経営企画部長に就任。2021年から現職。

で東京に滞在し、理科大MOTに通っていました。土曜日の夜9時半には神楽坂の校舎を出なければ最終の新幹線には乗れません。でも、2年次のゼミは授業時間が終わっても白熱した議論が続き、この場を逃したくないと思った時はホテルを予約して、もう1泊したときもありました。それぐらい理科大MOTの同期生との交流は貴重な時間でした。
若林 ゼミの交流では嬉しい話があります。北海道の東川町に関わっている理科大MOTの修了生から「コロナ禍で余っている東川町のお米をどうにかできないか？」と相談を受けたことがありました。私はゼミの学生たちとCKDを見学した際に社員食堂で美味しい昼食を食べたのを思い出し、投げかけてみたところ、CKDの社員食堂で引き受けてもらえることになりました。

横枕 実は、弊社では生産機械向けに開発した機器を一次産業向けに応用できないか模索していましたが、実用化に向けて協業できる団体がなかったのです。ご縁ができた東川町の生産者団体へお願いしたところ、弊社の技術を農業分野へ展開するための実証実験を引き受けていただきました。
若林 理科大MOTは教育機関ですが、いろいろな意味でここが「ハブ」になればと思います。

グラデュエーションペーパーで 理科大MOTの学びを凝縮

若林 理科大MOTでは2年間の学びの集大成をグラデュエーションペーパーにとりまとめるわけですが、どのような学びがありましたか？
横枕 理科大MOTでは本当に多くの知識を学びますが、グラデュエーションペーパーでは、その知識を総動員しながらテーマに沿ってストーリーを描いていきます。理科大MOTの学びの総まとめであり、知識を凝縮する作業だったと感じています。
佐久間 私のテーマは、M&Aによって事業統合したCKDと日機電装がいかにシナジーを起こしていくかでした。既存のM&Aでは営業は営業、技術は技術といった同一職種の部署を一緒にするのが一般的です。しかし、私は若林先生と議論をしながら、異なる機能の組織を結びつけて製品開発をする「たすきがけ結合」という手法で好事例を出していくことを発案。それをグラデュエーションペーパーで体系化できたのは非常に達成感がありました。先生、OBの方々などみなさんのバックアップがあり、仕上げることができました。



横枕祐さん

CKD株式会社 経営企画部主査。2020年3月修了。2005年、CKD株式会社入社。13年には医薬・医療業界向け機器製品の開発リーダーに。2021年から企画部門で活躍中。

若林 私もみなさんとグラデュエーションペーパーの作成を通じて深い議論をするのが一番の楽しみでした。奥岡社長は論文作成や理科大MOTでの学びを通じたみなさんの成長をどうぞ覧になっていますか？
奥岡 グラデュエーションペーパーの作成を通じて、先輩が後輩の内容を聞いて良い部分はしっかりと評価し、そのうえで広い視野から異なる視点のアドバイスをしています。これは理科大MOTで学ぶ以前には見られなかった成長で、本当に嬉しく思っています。ここにいる3人は優秀な技術者ですが、理科大MOTで学んだことで明らかに視野が広がり、短期的な目線から中長期的な目線で事業を捉えられるようになりました。修了生たちが理科大MOTで学んだこと、そして修了生の先輩後輩の相乗効果を会社の成長につなげたいと思います。私も努力しますので、みなさんこの良い流れを加速させていきましょう。

理科大MOTで習得したスキルを 社内実践する

若林 社内理科大MOTの学びをいかに実践していますか？
横枕 理科大MOTを修了してから、企画部門への異動となり、社内のビジネス全体を見るようになりました。理科大MOTで学んだこと、そしてグラデュエーションペーパーをまとめたことがかなり役立っていて、理科大MOTでの学びの重要性を日々実感しているところです。リーダーシップについても理科大MOTでの多くの学びを活かし、製品開発ではロードマップを描き、目指すべきものを共有するなど、リーダーとして方針や方向性を打ち出すことを心がけています。
鶴賀 理科大MOTでの同期生との議論を通じて、私がまず最初に発言し、議論に火を付けていく役割であると認識しました。理科大MOTを修了し、会社では研究開発のマネジメントをするようになったのですが、部内の議論でも、みんな最初に意見を言うのを怖がります。そこをどう引き出すのか、また一方では何も考えずに意見を言えば良いのではなく、次の一歩も考えることを促す。理科大MOTでの学びから得たそのバランスを社内意識的に実践しています。
佐久間 グラデュエーションペーパーで体系化できた「たすきがけ結合」の実装についてはまさにこ



鶴賀寿和さん

CKD株式会社 新規事業開発室先端技術開発グループリーダー。2021年3月修了。1997年、CKD株式会社に入社。事業部にて主にセンサーの開発に従事した後、コンポーネント本部 開発技術統括部に配属。要素技術の開発を中心に活躍中。



佐久間昭宏さん

CKD日機電装株式会社 技術部LD1課LD2係係長。2022年3月修了。2007年、日機電装株式会社へ入社。産業機械用モータ設計開発に従事。2017年に事業統合したCKD株式会社と共同開発製品のプロジェクトリーダーに。現在もグループ企業におけるモータ開発の中核として活躍中。

れからです。まずは、社内理科大MOTの研究テーマを広め、この考え方に共感していただくところから取り組んでいきたいと考えています。
若林 奥岡社長、最後に理科大MOTでの学びに期待することをお聞かせいただけますか？
奥岡 理科大MOTの教育の良さは、若林先生はじめ先生方がみな情熱的で、温かくきめ細やかな指導をいただけることです。そして、修了後もさまざまな機会を作っていただき、先生方や先輩後輩、そして同期の仲間と学び合う場を継続していただければと思います。
若林 ご期待に沿えるよう、理科大MOTはこれからもバージョンアップしていきます。ぜひ、これからもよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。



若林秀樹 技術経営専攻 専攻長

履修モデル

修得した科目については、入学年次により授業科目名称等が異なる場合があります。



修了生
横枕祐 さん
CKD株式会社

事業成長に必要な
実践的な思考を養う



修了生
鶴賀寿和 さん
CKD株式会社

価値創造の在り方を
追究する日々

理科大MOT入学への道のり

入社以来、FA(ファクトリー・オートメーション)機器の開発に携わり、理科大MOT入学の前は医薬用バルブの開発を担当していました。特定のお客様向けに製品開発する手応えはつかんでいたのですが、新しい市場へ展開できないジレンマを抱えていました。時間をかけて開発した製品をスピード感とスケール感を持ってビジネスとして成長させたいと思っていた時、理科大MOTへの社内公募があり、絶好のチャンスだと思って応募しました。弊社では私が初めての理科大MOT入学でした。

理科大MOTでの学び

愛知勤務の業務との両立を図るため、神楽坂での授業は金曜日と土曜日に絞りました。履修できる科目は限られていましたが、インターネットでは学べない、議論を主体にリアルなビジネスを学べる科目を選びました。

印象的だったのは、模範的に起業する授業です。ビジネスモデルを考える時、私はどうしても技術者としての視点に偏ってしまうので「良いものを作れば売れる」と考えがちです。しかし、事業として成立させるには、成長戦略を描くことが重要です。事業を動かすうえで必要な考え方を実践的に学ぶことができ、一気に視野が広がりました。

また、基礎的な科目では「経営管理会計」を履修したのですが、会社の業務において、事業を動かすための予算運用を考えるうえでも理科大MOTで会計を学べてよかったと思います。

理科大MOTの学生たちは異なる業種や職種で重要なポストに就いている方ばかりです。日々、課題解決に取り組んでいる方々と「同期」という関係性で学び合う機会は非常に貴重でした。立場が異なるからこそ、多

様な視点から意見を交わし、議論が深まっていきました。ある時、私が倉庫管理システムについて弊社の業界での事例を異業種の方に話すと、「それいいね！導入したい！」となり、その技術が実際に採用されたケースもありました。その行動力には刺激を受けました。理科大MOTの同期生からの学びは本当に大きかったです。

理科大MOTのグラデュエーションペーパー

グラデュエーションペーパーのタイトルは「Industry 4.0におけるFA機器メーカーの共創戦略提案」です。理科大MOT入学以前にドイツの展示会で、IT技術とデータの利活用を積極的に導入して製造業を改革する「インダストリー4.0」の概念に出会い、衝撃を受けました。「弊社の事業の在り方はこのままでよいか？」という疑問を抱えていましたから、そのテーマにグラデュエーションペーパーを通じて向き合うことにしました。作成には苦労しましたが、担当の若林先生の助言や同期生との議論もあって、業界全体を俯瞰しつつ、弊社について踏み込んで論じられました。

理科大MOTで学んだ成果

理科大MOTでの学びによって、視野が広がり、企業の経営目線で物事を考えられるようになったと実感しています。理科大MOT修了後に企画部門という部署に異動になりました。製品の開発や特定の製品の事業展開だけでなく、より高い視点で弊社全体の戦略を考える部署です。グラデュエーションペーパーでまとめたIoTによる製造業の改革を全社的なテーマとして位置付けていき、理科大MOTで身に付けた広い視野とビジネスの考え方、そして業界を俯瞰したうえで弊社はどうすべきかを考えながら、社内での仕事を充実させていきたいです。

修得年次	区分	授業科目名称
1年次	コア科目	イノベーションを生む企業文化
		イノベーション志向型競争戦略
		デザイン思考
		イノベーション志向型マーケティング
		世界の中の日本とアジア
		意思決定の経済分析
		リーダーシップと倫理
		グローバル戦略・組織論
		組織進化論
		グローバル化と知識交流
	経営管理会計1	
	経営管理会計2	
	トラック科目	ベンチャービジネス論
		起業家精神の原則
ビジネスで成功するための戦略		
データ分析による意思決定		
演習科目(選択)	製造業のサービス化	
	チャネルマネジメント	
2年次	General Management	実践リーダーシップセミナー
		MBA寄附講座
	トラック科目	研究開発組織のマネジメント
		業界分析
		ビジネスモデルイノベーション
		ダイナミック環境下の知財戦略
		デジタルマーケティングとソーシャルメディア
		ソフトウェアとインターネットビジネス開発
	演習科目(必須)	プロジェクト1
		プロジェクト2
プロジェクト3		
プロジェクト4		

理科大MOT入学への道のり

弊社はFA機器メーカーですが、私は主にセンサーの開発に携ってきました。担当製品を介して見る現場の姿の移り変わりから、産業界が今後どう動いていくかには強い関心を抱いていました。IT技術やデータの利活用によって世界の製造業が大きく変化しようとする中、芽生えたのは「弊社はどのように乗り切っていくのか」という問題意識です。自分なりの答えを見つけないか、社内公募を通じて理科大MOTに入学しました。

理科大MOTでの学び

理科大MOTの良さはビジネスの目線がかなり厚いことです。外部のゲスト講師の授業を意識的に履修しました。印象に残っているのは「MBA寄附講座」です。ある医療機器メーカーの社長、研究所所長、マーケティング部長がそれぞれの立場からCTスキンの開発について語りました。痛感したのは、立場によって目線は違いますが一本筋が通っていること。ビジョンを共有し、経営、研究、マーケティングが見事に連携しているのを目の当たりにし、「こうあるべきだ」と胸に落ちました。

ビジネスの現場で活躍されている方々の話は、理科大MOTの授業で日々学んでいる知識とつながっていると感じました。ビジネスにはさまざまな理論がある中で、経営者がそれをどう選択し、実践したかのリアルな話を聞いたのは本当に大きな気付きを与えてくれました。

理科大MOTのグラデュエーションペーパー

グラデュエーションペーパーのタイトルは「価値創造を促す『見える工場』によるオープンイノベーション」です。私は「世の中の企業活動は効率化を重視しすぎているのではないか。効率化よりも新たな価値の創造こそ企業が取り組むべきことではないか」という違和感を抱いてきました。理科大MOTで具体的なビジネスの事例を学ぶ中で、この違和感に対して自分なりの意見が言えるようになったので、さらに掘り下げてグラデュエーションペーパーを作成していくことを決めました。

主査の若林先生との対話から論を構築するうえで多くの気付きを得て、その後の中間発表会では出席した数多くの学生たちからアドバイスをもらいました。さらに、それらの意見をゼミの授業で議論し、理解を深めたので、内容の厚みを増すことができました。

理科大MOTで学んだ成果

「何か新しい価値をつくるには、忙しさに追われるのではなく、余白が必要だ」と確信できたことが理科大MOTでの最大の収穫です。理科大MOT修了後、新規事業開発室に異動となりました。ずっと先の未来に必要なものを創造する部署ですが、マネジメントにおいても、効率的に業務を回しながら、しっかりと余白をつくるように心がけています。理科大MOTで学んだ考え方が生きていて実感しています。

修得年次	区分	授業科目名称
1年次	コア科目	イノベーション志向型競争戦略
		イノベーションを生む企業文化
		デザイン思考
		グローバル化と知識交流
		経営管理会計1
		意思決定の経済分析
		組織進化論
		世界の中の日本とアジア
		イノベーション志向型マーケティング
		リーダーシップと倫理
	経営管理会計2	
	トラック科目	グローバル戦略・組織論
		イノベーションの歴史
		中小企業論
研究開発組織のマネジメント		
演習科目(選択)	ITの戦略的利用	
	新製品開発に応用する伝統技術	
	ベンチャービジネス論	
	データ分析による意思決定	
	サービス戦略とイノベーション	
	チャネルマネジメント	
2年次	General Management	実践リーダーシップセミナー1-1
		実践リーダーシップセミナー1-2
	トラック科目	実践リーダーシップセミナー2-1
		実践リーダーシップセミナー2-2
	社会連携科目	MBA寄附講座
		MTI寄附講座
	演習科目(必須)	アドバンスドリーダーシップ
		プロトタイプと製品・サービス開発
		先進的ものづくりとサプライチェーンマネジメント
		業界分析
ビジネスモデルイノベーション		
アドバンスドマーケティング&ブランド戦略		
演習科目(選択)	コーポレートファイナンスと資本市場	
	企業合併と買収マネジメント	
	サービス関連産業特別講義	
	プロジェクト1	
演習科目(必須)	プロジェクト2	
	プロジェクト3	
	プロジェクト4	
	実践ケーススタディ	

自社の課題を深く考え、
解決策を導く



修了生

佐久間昭宏 さん
CKD日機電装株式会社

理科大MOT入学への道のり

弊社は、1967年創業で産業用のモーターなどを製造してきた日機電装とFA機器メーカーのCKDが事業統合した会社です。私は日機電装に入社して以来、モーターの製品開発を担当してきました。近年、会社全体として次世代モーターの製品ラインナップをいかに構築するかという課題を抱えていました。理科大MOTは既存の価値観にとらわれず、物事を多角的に見られる力を養う教育機関です。理科大MOTでの学びを製品開発に反映したいと考え、入学を決意しました。

理科大MOTでの学び

入学後は、知的財産や特許、組織戦略など、実務に役立つ科目を履修しました。印象的だった科目は「研究開発マネジメント」です。製品の開発を想定して、市場調査や製品企画、試作から量産化までのプロセスを構築していくのですが、教員と学生、OBが三方向の視点から議論を深めていきました。私自身が日々、製品開発に向き合っているのでも、業務に直結した内容でとても有意義でした。

理科大MOTでは日々の講義を終えたあとに「今日学んだことは自社に落とし込めるか？その際にはどんな課題があって、どんな特別解があるのか？」と考える機会が得られました。

理科大MOTのグラデュエーションペーパー

グラデュエーションペーパーのタイトルは「PMIにおける異文化企業間のシナジーを創出する組織戦略」です。事業統合をした日機電装とCKDの間でいかにシナジーを生み出していくかがテーマです。当時、日々模索していたリアルなテーマでした。事業統合では一般的に同じ機能の組織同士を合わせますが、私は、開発部門と営業部門など、異機能組織の結合から製品開発に至った事例を研究しました。

私は自分の殻にこもってひとりだけで考えがちなタイプです。グラデュエーションペーパーの作成では主査の若林先生の個別指導で私の研究テーマは「たすぎがけ結合である」という明快な指摘をいただきました。そしてゼミでの同期生からの客観的な意見も有益で、狭かった視野が一気に広がりました。

中間発表会、最終発表会でも有意義な意見をたくさんいただきました。それぞれの指摘は的確かつ建設的でした。私が悩んでいた部分も多く、「ああ、自分が迷っていた箇所は、やはり大切な部分だった」と実感でき、論文作成を後押しされた気持ちになりました。

理科大MOTで学んだ成果

理科大MOTでの2年間に、自社製品の経緯と成功事例に焦点を当て、日機電装とCKDという異文化の組織がシナジーをどう起こすかを深く考えられました。今後は、理科大MOTでの学びを活かして、弊社の社員同士が積極的に交流し、シナジー創出を活性化し、新たな製品開発へとつなげていきたいと考えています。

修得年次	区分	授業科目名称
1年次	コア科目	イノベーションを生む企業文化
		組織進化論
		イノベーション志向型経営戦略論
		科学技術論
		経営管理会計
		マクロ・ミクロ経済学
	トラック科目	イノベーション志向型マーケティング
		コンプライアンス・リスク管理論
		チャネルマネジメント
		先端科学技術の知財保護
		マネジメント総論
		企業産業分析予測
		ユーザーイノベーション
		実践組織戦略
社会連携科目	技術・ものごとづくり	
	アドバンスリーダーシップ	
	価値創造	
	生活関連特別講義	
	マーケティング特別講義	
	プロジェクトエクササイズ	
演習科目(選択)	実践ケーススタディ	
	実践CXO・起業家ケーススタディ2	
	科学技術基礎	
	財務・会計基礎	
基礎科目	経営基礎	
	経済学基礎	
	研究開発マネジメント	
トラック科目	ビジョナリー・妄想力	
	ブランド戦略	
2年次	社会連携科目	企業合併と買収
		先端科学技術特別講義
	演習科目(必須)	プロジェクト1
		プロジェクト2
		プロジェクト3
		プロジェクト4

Pick up 授業

東京理科大MOTの特徴的な授業の一部を紹介します。



スタートアップサイエンス

- 理科大MOTの目的の1つに、イノベーションを実現するCXO(最高経営責任者等)や起業家の育成があります。起業する際の組織形態としてスタートアップがあり、これはMOTの目標でもあります。日本では起業家率も低く、起業の成功率も低いことが現状です。
- 本科目では、起業について学び、起業をできる限り科学的に行ううえで必要となる専門知識・実務などについて学ぶとともに課題解決に向けた実践力を身に付けることを目的に授業を行います。
- 起業や新規事業の成功条件の分析などスタートアップを成功に導くための講義。学生自らによる起業アイデアの発案と発表を通して企業体験の演習を行い、また、理科大発ベンチャーや起業家をゲスト講師に招いてディスカッションする3本柱で授業を構成しています。
- 学生は、実際に起業を成功させた起業家との交流を通して起業家精神に触れることで、大きな示唆を得ることができ、さらに、教員や学生同士の議論を通して、事業モデルに関する目利き力などを養うことができます。また、学生は、自社の新規事業や自らの起業へのシナリオを明確化することができます。

主なゲストスピーカー (2020年・2021年・2022年 ※所属・役職は招聘当時)

- 石井大智氏 株式会社 STANDARD 代表取締役会長
- 石坂 茂氏 株式会社 IBJ 代表取締役
- 稲田将人氏 株式会社 RE-Engineering Partners 代表
- 片寄裕市氏 東京理科大学インベストメント・マネジメント株式会社 代表取締役社長
- 富井伸行氏 株式会社ニトリホールディングス 執行役員
- 藤井徳久氏 株式会社情報工場 代表取締役
- 南 達也氏 株式会社スタディスト グローバル事業部長兼社長付特命担当
- 山本貴博氏 東京理科大学 理学部第一部物理学科教授
- 高橋 治氏 東京理科大学 工学部建築学科教授

実践ケーススタディ

- 理科大MOTの修了生には、イノベーションを起こしているCEOやCTO、専門性の高いCXO、起業家が多くいます。本科目は、新規事業やベンチャー企業を創始するなど、MOTでの学びを実践し、多様な方面で活躍している修了生を招いた授業です。
- 修了生による具体的なケーススタディ、修了後のMOTでの学びやグラデュエーションペーパーの活用法、そして、講義後の質疑応答を行います。
- 教員、学生によるグループディスカッションなどを通し、学生は、企業経営の在り方や新規事業化の方法、起業のためのヒントなどを得ます。そして、これまで学んだ技術経営に関する知識を修了後にどのように活かしていくべきかを確認することができます。それにより、知識を定着させることができ、実践力が高まります。
- 修了生自身も自身のケースを振りかえり教員や学生とのディスカッションを通して、多くの学びや自らを見直す好機を得ることができます。また、本科目は理科大MOT修了生同士の貴重な人的ネットワーク構築の場ともなっています。

主なゲストスピーカー (2020年・2021年 ※所属・役職は招聘当時)

- 阿部光弘氏 株式会社メルコホールディングス・株式会社PX ストア 代表取締役社長
- 宇佐美直子氏 野村不動産株式会社 執行役員
- 加藤潤一氏 株式会社 Aikomi 共同創業者 COO
- 更家富美子氏 東京サラヤ株式会社 社長室長、社長補佐
- 下川真人氏 パラマウントベッド株式会社
- 関 類子氏 新生銀行価値共創推進本部
- 栗岡大介氏 くりや株式会社 代表取締役社長兼株式会社薬王堂ホールディングス 取締役
- 八戸俊晴氏 マグ・インパル株式会社 製造部プロダクトマネージャー
- 平井大之氏 株式会社メルコホールディングス・株式会社バイオス 代表取締役社長
- 皆木和義氏 DC 研究会 代表

ビジョナリー・アート・妄想力

- 現代社会は未来の予想が難しいVUCA時代と言われています。このような中、単にヒト・モノ・カネというリソースのバランスを取れるだけでは不十分であり、社会や環境との調和を図り、新しい価値観や生き方、ビジョンを提示できる人材が強く求められています。
- 産業界においては、DXや人工知能(AI)、ロボット化が進む中、差別化がますます難しくなっているため、これからの経営者・起業家・イノベーターには、ビジョン、アート思考(アートの発想力)も必要な要素となります。
- 本科目では、このような時代のニーズに合った人材の輩出を目標に据え、授業を構成しています。ビジョナリーな経営者やイノベーターをゲスト講師に招いての講義、そして、妄想絵を描く演習を通して、経営理念や社会理念の上位にあるビジョナリー、イノベーションを起こす原動力となる妄想力、美意識を鍛え、自らの価値観をデジタルツールにとらわれず、視覚的に表現できる人材の育成を目指します。

主なゲストスピーカー (2021年)

- 向喜一郎氏 SSISメンバー
- 伊東 乾氏 東京大学大学院 情報学環准教授



グラデュエーションペーパー作成の道のり

2021年度
春期入学の場合



「プロジェクトエクササイズ」「プロジェクト1・2・3・4」では、履修教員のもと、実践の理論化、企業調査活動、各種インタビュー、フィールド実践知を踏まえ、最終成果物として、学生個々の課題に応じた「技術経営論文」及び「ビジネス企画提案」に区分されるグラデュエーション修成果を「見える化」とともに、社会(産業界)の要請に応えます。

ワーク等の手法や学生個々が持つンペーパーを作成し、本専攻での学

技術経営論文

最終審査発表会前に学会等で発表(発表決定)、論文は原則公開(専攻HP公開予定)。

※発表する学会は、専攻の基準(条件)を満たす学会とする。

ビジネス企画提案

「起業案(計画)」、「新規事業提案」、「プロトタイプ」に細分化。本文は非公開。教員(主査)と当該学生の企業やその他が十分に意見交換を行い、企画提案を実現する。

[アドミッション・ポリシー] (抜粋・要約)

- 10～15年の実務経験があり、深い学識と卓越した能力を身に付けた人、課題を発見し解決する意欲のある人、高度専門職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人と協働して学修意欲のある人。
- 実践知や学識及び能力をもとに社会においてグローバルな視点を持って活躍しようとする意欲のある人。

入学

プロジェクトエクササイズ (秋・冬期)

1年

■ グラデュエーションペーパー作成計画の作成

- ・ この段階で目指す方向性を探ります。
- ・ テーマに対する着眼点を整理します。

プロジェクト1 (春期)

プロジェクト2 (夏期)

2年

■ グラデュエーションペーパーへの着手

- ・ リサーチクエストを確認し、仮説を検証して作成計画書を作成します。
- ・ テーマを確定し「技術経営論文」か「ビジネス企画提案」を決定します。

■ 進捗(中間)発表会への準備

- ・ テーマに対する検証を重ね、研究を進めます。進捗(中間)発表会に向けて研究資料を準備します。

進捗(中間)発表会

- 設定したテーマに対する検証方法やデータの収集方法など、グラデュエーションペーパーの構想と進捗を発表し、さまざまな方の意見や助言をいただき、方向性を確認します。

■ 進捗(中間)発表会での助言を反映して、さらに社会(産業界等)のニーズに応えるペーパーに!

- ・ 教員や学生、助言委員会のアドバイスを反映してグラデュエーションペーパーの内容や作成計画を再検討し、最終審査発表会に向けて着手します。

[ディプロマ・ポリシー](抜粋)

本専攻に2年以上在学し、以下の知識(知見)・能力を最終成果物(グラデュエーションペーパー)により測り、本専攻の定める40単位を修得した学生に対して修了を認定し、技術経営修士(専門職)の学位を授与する。

1. 技術経営及びその関連分野についての高度な実践的専門知識。
2. 技術経営及びその関連分野における高度な実務実践能力。
3. 「科学技術」と「経営」の実践的融合により、「理論」と「実践」の両面からイノベーションに係る課題を把握・分析することができる能力。
4. 既存の科学技術研究の成果を基礎に、イノベーションに係る新たな仮説を設定することができる能力。
5. 技術開発から市場化へのプロセスにおける一連のイノベーションを担い、課題解決することができる能力。
6. イノベーションに係る課題の解決策を戦略的に提案・論証することができる能力。
7. 起業家・CXOに必要な高い職業倫理観を持ちつつ、高度な実践知と卓越した能力をもとに、グローバルな視点を持って適応し活躍できる能力。

企業

企業にフィードバック

- グラデュエーションペーパー作成で培った知見や経験を日々の業務に活かし、また、新規事業や新たなプロジェクトに対し、客観的に検証、考察することができるようになります。

修了

最終審査発表会

- 理科大MOTの学びを報告する場です。「技術経営論文」は、事前に学会での発表を行い、「ビジネス企画提案」は指導教員や助言委員、そして所属企業の経営陣の前で企画提案を行います。
- 修了後にそれぞれのグラデュエーションペーパーが企業や社会(産学界等)で活かすことができるように、担当教員や助言委員のアドバイスを頂きます。

プロジェクト4 (冬期)

プロジェクト3 (秋期)

■ 技術経営論文は学会への発表準備

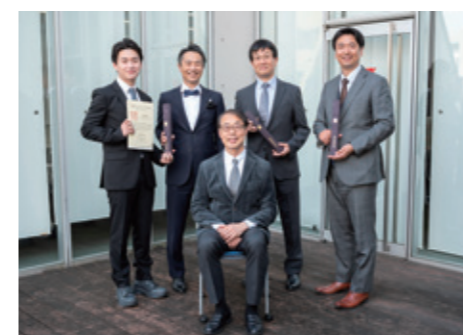
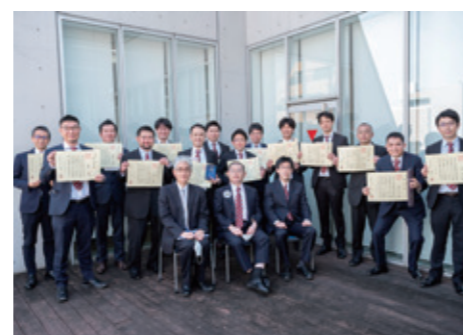
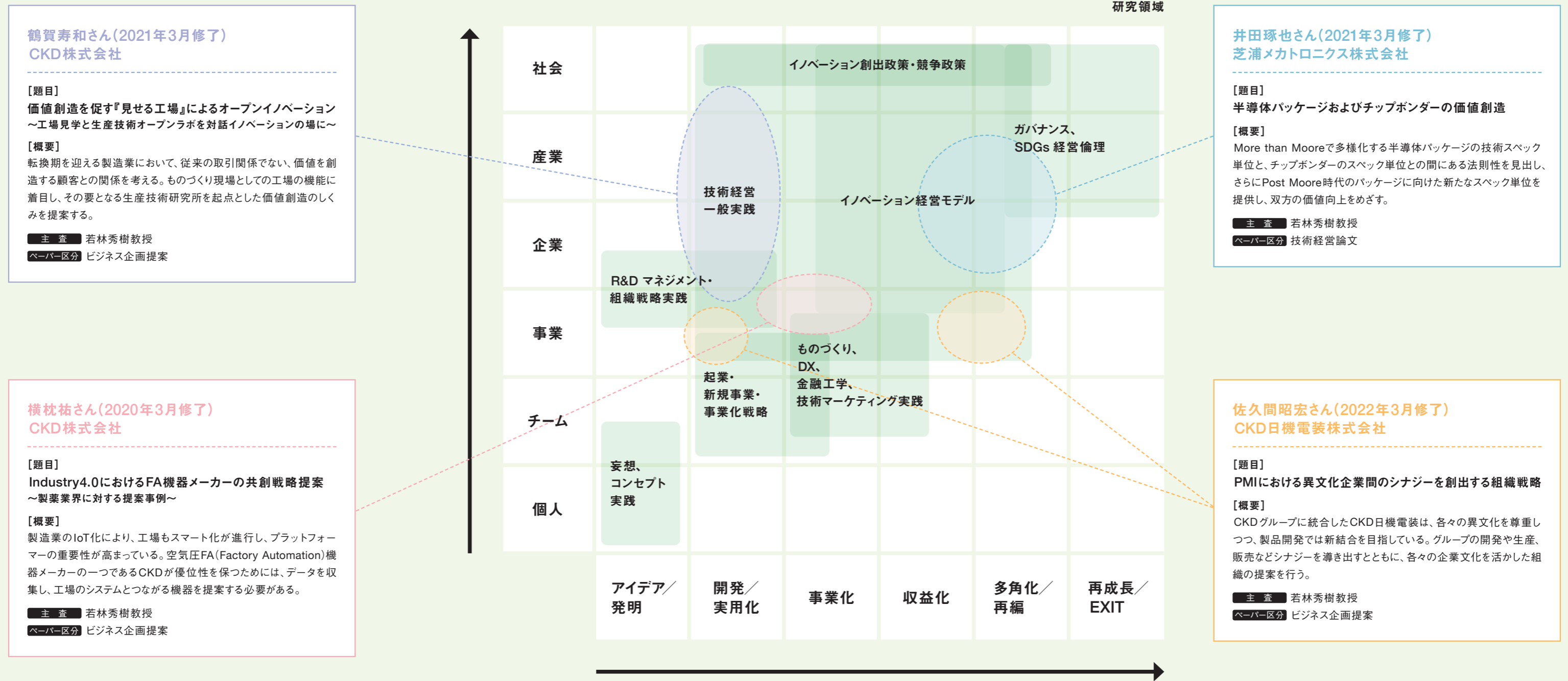
■ ビジネス企画提案は自社に対し提案できるように準備

■ 最終発表・グラデュエーションペーパー完成に向け精緻化

■ 企業等への発表

グラデュエーションペーパー 研究領域 分布図

2年間の集大成として完成させるグラデュエーションペーパーは、テーマや内容が多岐にわたります。ここでは4人の修了生のグラデュエーションペーパーから、理科大MOTの研究領域を探ります。



2023年度専任教員(予定)

青木 英彦 教授

神戸大学経営学部卒業。米国Duke大学Fuqua School of BusinessにてMBA取得。神戸大学大学院経営学研究科経営学専攻博士後期課程修了博士(経営学)。(株)野村総合研究所に勤務、野村証券インターナショナル(米国ニューヨーク市)、ゴールドマン・サックス証券(株)、メリルリンチ日本証券(株)、野村証券(株)にて小売・EC担当証券アナリスト業務に従事。2020年9月より現職。産業構造審議会流通部会、製・配・販連携協議会、などの委員を歴任。日本証券アナリスト協会検定会員、CFA協会認定証券アナリスト。



私のグラデュエーションペーパーの指導方針は、大きく3つあります。第一は、自分が業務を通じて得た自分ならではの問題意識にこだわるということです。自分の問題意識を高め、徹底的に追究し、ペーパーのテーマを設定します。第二は、一次情報を重視することです。論文を調べるときには、世界中の原文に当たる。人の意見を求めるときには、実際にその人のもとに出向いて話を聞く。そうして現場・現物・現実を当たることが、ペーパーのオリジナリティにつながります。情報のインプットが変われば、おのずとアウトプットも変わってくるものです。

そして、第三は、経営者目線を意識することです。仮に今、経営職に就いていなくとも、「自分が経営者であれば、どうするか」、「企業経営はどうあるべきか」などと自問しながら、ペーパーを作成します。せっかく理科大MOTで学ぶのですから、日々の業務の延長線ではなく、より目線を高く、視野を広く持つように指導しています。

石橋 哲 教授

東京大学法学部卒業。(株)日本長期信用銀行、Citibank N.A.、(株)産業再生機構、東京電力福島原子力発電所事故調査委員会(国会事故調)、政策研究大学院大学客員研究員、サイバーセキュリティベンチャー経営等を経て、2019年4月より本専攻嘱託教授(みなし専任)に就任し、2021年9月より現職。



学生の皆さんが2年次に取り組むことになるのが、グラデュエーションペーパーの作成です。グラデュエーションペーパーを作り込むプロセスに、私もご一緒させていただきます。イノベーションや技術革新は、単に良い製品、良いテクノロジーを生み出すばかりではありません。それらは社会に新しい価値を生み出し、さらに実装されれば、そこに関わる人々それぞれが新しい発見をし、新しい世界をつくり、また新しい価値を生み出していきます。そして、それこそがまさに人の営みののだといえます。このことに私が気付いたのは、一人の学生が「テクノロジーの社会実装を伴う社会的な合意形成」をテーマにグラデュエーションペーパーの作成に取り組み、その指導に携わることができたからです。

多種多様な事業活動の第一線でリーダーとして活躍する仲間と議論を交わし、多くの気付きを得て、自分で考え、さまざまなものを変えていく。そうした契機となる学びをともにしていきましょう。

生越 由美 教授

東京理科大学薬学部卒業。特許庁に入庁、政策研究大学院大学助教授を経て、2005年本学イノベーション研究科知的財産戦略専攻(MIP)教授に就任、2018年4月より現職。知的財産戦略本部コンテンツ・日本ブランド専門調査会委員などを歴任。(財)機械産業記念事業財団第1回知的財産学術奨励賞(日本知財学会特別賞)受賞。弁理士。



グラデュエーションペーパーのテーマを決めるには、「自分で考え尽くすこと」が重要です。まずは学生がしっかりと自問自答すること。これまで130人以上(MIPを含む)の学生さんが私のゼミに所属されましたが、その結果、選ばれるテーマは、自分の仕事に関連したもの、趣味を反映したものの、どちらかに該当することがほとんどです。

グラデュエーションペーパーを作成するには、モチベーションを高く保ち、集中して考え続けなければなりません。よって、こうしたテーマが自然と選ばれやすくなるでしょう。実際、グラデュエーションペーパーは理科大MOTでの2年間の集大成であり、MOTで修得した理論と実践の両面から、関係諸課題を自ら発見、把握、解決する能力が養われます。これが皆さんの血となり肉となり、これからの人生と社会に役立つ能力を醸成します。

未来に向かっていく学生の成長の礎となるのがグラデュエーションペーパーです。皆さんが選んださまざまなテーマについて全力でサポートしますので、私自身の領域も広がっていくのが楽しみです。新しい未来と一緒に作りましょう。

加藤 晃 教授

防衛大学校卒業(国際関係論専攻)、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科博士後期課程修了博士(経営管理)。貿易商社、AIU保険会社において傷害保険業務部課長(アンダーライター/新商品開発)・戦略プロジェクト責任者・コーポレートビジネスディベロップメント部長等、AIGインシュアランスサービス(株)代表取締役社長(出向)、愛知産業大学経営学部教授を経て、2020年4月より現職。経済産業省ISO/TC322(サステナブルファイナンス)国内委員・エキスパート、公益社団法人日本アナリスト協会サステナビリティ報告研究会委員、日本価値創造ERM学会理事、ほか。



グラデュエーションペーパー(以下、GP)については、テーマ選びが最も重要と考えています。「現在、自分が担当している商品やサービスを対象とした」という方もおられますが、それより数段階高い視座からテーマを設定するようにお勧めしています。なぜなら、タイムラグはあっても、将来のキャリア形成に資すると考えているからです。文献調査、方法論を含みリサーチデザインも大切です。GPの作成過程は、いつも順調に進むとは限りません。私の指導もさることながら、学生同士で有益な情報を共有、励まし合うことで躰いた時も乗り越えているようです。

GP作成・修了後、DXの成功事例として学外の諸団体から依頼され講演、企画が評価されて新設会社の担当者に抜擢、社外取締役への就任・起業など、嬉しいことに各方面で活躍されています。是非、ご自身のキャリアを理科大MOTでリ・デザインしてみてください。Where there is a will, there is a way.

諏訪園 貞明 教授

慶應義塾大学経済学部卒業、米国Fletcher法律外交大学院修了。日本銀行入行後、調査統計局、国際局、発券局等において、景気・国際収支予測、国際機関との連携等に係る作業に従事。公正取引委員会、経済産業省、内閣府・内閣官房において、所管する法令等の施行などにも従事。日EU経済連携協定、TPP、RCEP等の二国間・多国間経済連携協定等の条文交渉に携わったほか、G7競争当局間での「競争とデジタル経済」に関する共通理解の策定等に当たった。2022年より現職。



理科大MOTの良いところは、技術研究がしっかりと行われており、技術的にきちんとした裏打ちのある経営戦略を学べることです。逆に言えば、すでに技術的な裏打ちがあるわけですから、あとは想像力をたくましく、さまざまな経営戦略をどんどん練っていくことが重要になります。したがって、学生の皆さんには、前例のない、過去にとらわれない研究発表をグラデュエーションペーパーの中で描いていただきたいのです。その折には、私も最大限ご支援申し上げます。

2021年度、私は、助言委員として、グラデュエーションペーパーの中間発表会、さらに最終発表会に出席しました。そこで、中間発表会で発表されたテーマが、学生の皆さんのその後の奮闘と努力によって、予想もしえなかった素晴らしい企画提案に仕上がし、最終発表会で披露されるという事例に数多く出合いました。今後も、そんなサプライズに満ちたグラデュエーションペーパーの作成・発表を期待しています。

田村 浩道 教授

早稲田大学大学院理工学研究科修了。(株)野村総合研究所企業調査部に入社、その後、野村証券(株)にてエクイティ・リサーチ部チーフ・ストラテジスト、クオンツリサーチ部長を務めた後、2018年よりインデックスの構築と管理等を行うFTSE Russellにてアジア・パシフィックインベストメントリサーチ・ヘッドを務める。証券アナリストジャーナル編集委員。2021年度より本専攻非常勤講師、2022年9月より現職。



幅広い知識と経験を武器として持つ技術経営修士にとって、近年大きく発展しているフィンテックをはじめとする金融工学の分野は無視できない重要な分野です。理科大MOTでは、昨年度より「フィンテック2.0」と称して、金融工学の最前線の理論を学ぶだけでなくディーリングルームにて実際に演習を行う新ステージに入りました。演習の発表会ではプロのファンドマネージャー顔負けの素晴らしい運用戦略の発表があり、ディーリングルーム演習が理科大MOTの新しい差別化ポイントの一つになりつつあることを実感しています。

本年9月より専任教員となりますが、理科大MOTの学生の皆様には、他では得られない幅広い知識・経験を獲得していただけるように、最大限のお手伝いをさせていただきます。技術経営の根幹を獲得したうえで、資本主義のベースでもある投資家の評価がどのように行われているのかを理解し、金融工学と技術経営を深く結びつけた経営能力をぜひ理科大MOTで獲得してください。

中山 裕香子 教授

慶應義塾大学理工学部電気工学科卒業。同大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程修了。米コロンビア大学Executive Development Program修了。(株)野村総合研究所において、放送・通信産業や電機産業における事業戦略立案、マーケティング戦略立案、新規事業立ち上げ支援などのプロジェクトに従事。2004年から2008年までNRI-Americaに勤務し、米国の通信・メディア産業に関する調査研究を実施。日本に帰任後は、デジタル化で大きな変革期を迎えたメディア産業や小売・流通産業へのコンサルティングプロジェクトを担当。2019年4月より本専攻非常勤講師、2021年4月より現職。



グラデュエーションペーパー作成では、学生の皆さんご自身の気付きを重視し、それに並走・伴走しながら、企業や産業、社会に貢献できる形にしておくことを目指しています。

今は、例えばSDGsのような世界的な課題が注目を集める一方で、モノや情報に満たされているためか、普段の生活の中では解決すべき問題が減っているようにも見えます。しかし、問題がまったくなくなったわけではありません。つまり、見えない課題に対して問いを立てることの重要性が増している時代なのです。何を問いとするのか。それに気付くことをグラデュエーションペーパーのスタートとしています。さらに、ゼミの中での議論を大切に、それぞれの学生のテーマをみんなで考えることで、より多くの視点を盛り込むように心がけています。

日常では接点のない人たちと深く交わることができるのも、理科大学MOTの魅力です。その得難い経験を、ぜひこれからの人生の糧としてください。

日戸 浩之 教授

東京大学文学部社会学科卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了。(株)野村総合研究所入社、コーポレートイノベーションコンサルティング部グループマネージャー、未来創発センター上席コンサルタントの他に、北陸先端科学技術大学院大学客員教授を兼務。2019年4月に本専攻嘱託教授(みなし専任)に就任し、2020年4月より現職。『デジタル資本主義(共著、東洋経済新報社)』により第28回大川出版賞受賞。



理科大学MOTのカリキュラム上の大きな特長の一つであるグラデュエーションペーパーは、一般的な修士論文に相当し、1年次の「プロジェクトエクササイズ」という講義からテーマの検討を始め、2年次にプロジェクト、いわゆるゼミに所属して、作成を進めます。このゼミでの議論が、非常に面白く有意義な場をもたらしてくれます。さまざまな経験を持つ社会人の学生の皆さんと多様な視点からの活発な議論を積み重ねていくことがポイントであり、この「多様性」(ダイバーシティ)こそが複雑な課題を解くための鍵になります。

その中でも、特に私からは専門のマーケティングの知見を活かし、市場動向や需要サイド・顧客起点からみた視点を盛り込んだ議論を促すことで、検討が供給側の独善的な見方に陥らないようにバランスを取っています。グラデュエーションペーパー作成を中心とした2年間は、学生の皆さんのキャリアや人生に、かけがえのない経験や人間関係といった資産をもたらしてくれると思います。

宮永 雅好 教授 (2024年3月31日退任)

早稲田大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科修了、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了(学位)。日本債券信用銀行(現あおぞら銀行)入社。1995年シュローダー・インベストメント・ジャパン。2001年ブルーデンシャル・インベストメント・マネジメント・ジャパン。2003年(株)ファルコン・コンサルティング。2017年より現職。日本証券アナリスト協会検定会員、CFA協会認定証券アナリスト。



理科大学MOTの特長であるグラデュエーションペーパーについては、内容が年々素晴らしいです。修士論文は、従来、2年間で作成せざるをえないこともあり、どちらの大学であっても、完成度を高めるには限界がありました。しかし、理科大学MOTでは、これまで先輩が築いてきた研究をさらに発展させるという手法を取り入れています。教員はもちろん、先輩の知見や助言を最大限に生かすことで、グラデュエーションペーパーの質を高めているのです。

21世紀の地球環境を含め、世の中を改善しようとするときに、技術や経営、社会に対して、どのようにしてイノベーションを創出するのか。また、どうすれば、サステナビリティ、持続可能性というものを追求できるのか。そうしたいわゆる広義の企業価値をどうつくり上げていくのかということ、理科大学MOTならではの年齢、国籍、職種もさまざまな学生の皆さんと一緒に考え、研究することができれば幸いです。

若林 秀樹 教授 [専攻長]

東京大学工学部卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了。(株)野村総合研究所入社、主任研究員、などを経て、欧州系証券会社ディレクター・シニアアナリスト、JPモルガン証券(株)マネージングディレクター株式調査部長、みずほ証券(株)ヘッドオブリサーチ・チーフアナリスト、その後、日本株投資運用会社のヘッジファンドを共同設立、最高運用責任者、代表取締役(株)サークルクロスコーポレーション設立、2017年、本学イノベーション研究科教授に就任。2018年4月より現職。この間、日経新聞等の人気アナリストランキングで電機部門1位5回、日本株ヘッジファンドのロングショート部門で受賞。半導体産業研究所諮問委員など歴任。現在、半導体デジタル産業戦略会議メンバー、JEITA半導体部会政策提言TF座長など。



理科大学MOTならではの特徴的なカリキュラムが、MOT発足以来のMOTペーパーの伝統を引き継ぐグラデュエーションペーパーです。グラデュエーションペーパーは2年間の集大成であり、新たな成長の踏み台です。

グラデュエーションペーパーのテーマはさまざまですが、社会人ならではのの中から生まれた問い、例えば理想と現実のギャップなど、日々の業務の疑問点をBig Questionにして、それを仮説検証し、多様な人材が集うゼミの仲間と議論しながら、オリジナリティと現実性・実用性を備えたものに仕上げます。グラデュエーションペーパーを一般化・普遍化して新たな理論とするのも、特別解として自身の会社などのための新規事業提案とするのも、テーマや適性に応じて自由です。苦勞をして、ゼミ仲間の助けも得て、完成した後での満足は格別です。中には、新規事業提案が会社に認められ、昇進や新組織を任せられたり、グラデュエーションペーパーに書かれたことを実践して起業をしたりする人もいます。グラデュエーションペーパーを通してイノベーションを!

井上 悟志 嘱託教授

東京大学工学部航空学科学卒。1993年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。同年通商産業省(現経済産業省)入省。産業技術政策局基準認証政策課工業標準調査室長、製造産業局自動車課電池・次世代技術・ITS推進室長、資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課電力需給・流通政策室長、製造産業局素材産業課革新素材室長等を歴任。2021年より現職。



理科大学MOTの学生は、ほぼ1年をかけてグラデュエーションペーパーを作成します。文字数にして50,000~100,000字、ページ数にして70~100ページにおよぶ、かなりの大作です。その作成を指導する際には、論理的であることはもちろんですが、細部をおろそかにしないことを特に心がけています。

私は学生時代、エンジニアリングについて学びました。エンジニアリングにおいては、どんなに些細なものでも、1つのミスが人命を左右する恐れがあります。グラデュエーションペーパーを作成する場合、仮に些細なミスがあっても、人を傷つけるような大事に至る可能性は低いかもかもしれません。

しかし、それが航空機の設計であれば、どうでしょうか。ケアレスミスだと笑ってはいられません。エンジニアリングに携わるのと同様の緊張感を共有し、それと同時に学生同士でお互いに助け合うチームワークを頼りにしながら、ともにグラデュエーションペーパーの作成に臨みましょう。

岸本 太一 講師

一橋大学商学部卒業、同大学院商学研究科修士課程研究者養成コース修了、同大学院商学研究科博士後期課程修了(博士(商学))。一橋大学大学院商学研究科特任講師、東京大学ものづくり経営研究センター特任助教、敬愛大学経済学部准教授を経て、2014年本学イノベーション研究科講師に就任し、2018年4月より現職。



グラデュエーションペーパーの作成の指導では、課題の発見と、それに関連する理論の構築に、相対的に重点をおいています。大まかにいえば、そのプロセスは、課題を発見し、その課題に関連する理論を構築し、その構築した理論に基づいて具体的な施策を考案する、というものです。そして、このプロセスに、考案した理論や施策を検証すること、一般化を試みる作業が加わります。

実務家の方々は、施策の考案、実行、検証については、ご自身の仕事の中で日常的に行われているでしょう。しかし、その反面、課題や理論にじっくり向き合う時間はありません。筋の良い施策は、実は、課題の本質を抽出し、それに関連した理論を構築しておく、生まれやすくなります。

他方、検証や一般化の価値も、その対象となる理論的なコンテンツの質を高めることで、向上します。私のゼミで課題の発見、理論的コンテンツの構築に時間を割くのは、こうした理由によるものです。



価値をつくる力を育む MOTの学び

理科大MOTの教育の意義と社員や企業の成長に与える好影響とは何か？
芝浦メカトロニクス株式会社で半導体製造装置の開発部門を担う
井田琢也さん(2021年3月修了)、菊池勉さん(2年生)、
そして同社の代表取締役社長の今村圭吾氏と相談役の藤田茂樹氏が
若林専攻長と語り合いました。

視野を広げるために 理科大MOTでの学びに飛び込む

若林 本日は、芝浦メカトロニクスのみなさんにお集まりいただきました。経営者のお二人に伺いますが、理科大MOTで技術系の社員を学ばせる決断をされた理由を教えてください。
藤田 会社の中だけにいるとどうしても世界が狭くなります。さまざまな職種と経歴の方々と付き合い、世の中の見方を豊かにしてほしいと思いました。物事の全体を見て、個別に落としていく。「森を見て、木を見られる人材」の育成が必要だと感じていました。
今村 顧客企業の経営者やエンジニアにお会いした際に、物おじせずに話ができて、なおかつ自社の技術をPRできる。さらにはお客様とともに成長できる。そういった人材を増やしていきたいと考えており、技術職社員のコミュニケーション力を高めることが必要だと思っていました。
若林 そのような経営層の期待のもと、理科大MOTに入学された井田さんですが、入学当初はどのような思いでしたか？

井田 入社してから20年以上にわたり技術者として仕事をしてきました。しかし、今後のことを考えると、「本当にこれまでの延長線でのいいか」「視野をもっと広げなければいけないんじゃないか」という危機感がありました。ですから、理科大MOTで学ぶお話を会社から提案された時は本当にありがたいと思いました。
若林 実際に入学し、理科大MOTの学びはいかがでしたか？
井田 私が入学した2018年はコロナ禍以前でしたので、授業はすべて対面式で、多種多様な業種や企業の学生たちと熱い議論を交わしました。本当に気付きが多く、有意義な時間でした。理科大MOTでの学びを通じて、明らかに物事の見方が変わったと思います。
若林 菊池さんは井田さんの後輩ですが、先輩からのアドバイスはありましたか？
菊池 井田さんとは勤務する事業所も異なるのですが、理科大MOTへの入学が決まって不安だった時に相談して、たくさんアドバイスをいただきました。井田さんの考えの深さや物腰の柔らかさ、説明の上手さを感じながら、自分にはない視点に気



芝浦メカトロニクス株式会社

1939年設立。商号を(株)芝浦製作所とする。その後、(株)徳田製作所、東芝メカトロニクス(株)と合併し1998年に商号を芝浦メカトロニクス(株)に変更。精密メカトロニクス、洗浄、ボンディング、エッチング、真空、成膜など幅広いコア技術の結集と融合により、半導体の前後工程、フラットパネルディスプレイの前後工程、電子部品などの用途向けに製造装置の開発からサービスまでトータルソリューションを提供している。近年、微細化が進む半導体分野の装置開発に注力。これから更に広がるデータ社会に向けて貢献している。

付くこともできました。

業務での課題に正面から取り組んだ グラデュエーションペーパー作成

若林 理科大MOTは修了要件としての「グラデュエーションペーパー」が必修で、「技術経営論文」と「ビジネス企画提案」から選択できます。2年次になって井田さんは私の担当するゼミで半導体製造装置の価値と競争力をテーマに技術経営論文のグラデュエーションペーパーを書き始めましたが、当初は苦労されましたね。
井田 入社後、半導体製造装置の設計開発に携わってきましたが、装置の価値を上げるのは技術であるという視点に偏っていたことに気がきました。技術以外の価値をどう考えれば弊社の装置の競争力が上がるのか？課題意識や危機感があったのですが、論文として書く際に、具体的にどう考えればよいか分からずに悩んでいました。
若林 そこである日のゼミの授業を「井田デー」にして、ゼミ生全員で徹底的に井田さんのテーマを議論しましたね。



今村圭吾氏

芝浦メカトロニクス株式会社 代表取締役社長。
1985年株式会社東芝入社。1996年芝浦メカトロニクス株式会社入社。メカトロニクスシステム装置統括部長、生産・調達本部長を経て、2014年取締役、2020年取締役専務執行役員。2021年から現職。

藤田茂樹氏

芝浦メカトロニクス株式会社 相談役。前代表取締役社長。
1982年東京芝浦電気株式会社(現東芝)入社。1996年芝浦メカトロニクス株式会社入社、ファインメカトロニクス事業部技術部長、横浜事業所ウェットプロセス装置部長を経て、2014年代表取締役社長に就任。2021年から現職。

井田 その議論でホワイトボードを使って整理した内容がヒントになって「非技術価値」というキーワードが生まれたことが論文の骨子づくりのブレークスルーになりました。技術経営論文を書く理科大MOTの学生は「研究・イノベーション学会」等での学会発表が必須です。ゼミの仲間との議論を通じてから浮き彫りになった論文のテーマをさらに煮詰めて、学会に提出する5000字ほどの要旨を書き上げました。とても苦しい作業でしたが、この要旨ができたことで、見通しが立ちました。

若林 企業の経営サイドから見て、井田さんの選ばれた「価値」についてどうお考えですか？

藤田 半導体装置のメーカーは弊社よりも規模の大きな企業がいくつもあります。弊社が世の中のために役立ち、かつ会社として事業を成功させるために、お客様に役立つ「価値」に合わせた製品を提供することに力を入れていきます。

若林 実は菊池さんも価値をテーマにグラデュエーションペーパーを書かれています。でも、井田さんとアプローチがまったく違う。井田さんは製品の価値そのものについて論じていますが、菊池さんは価値をつくるプロセスでお客様との共有すること自体に価値があるという視点です。菊池さん、論文作成に取り組んでみてどうですか？

菊池 私と井田さんはともに半導体製造装置の技術者ですから、いかに井田さんの素晴らしい論文に引っ張られないようにするかが今の大きな悩みです。そこからどうにか抜け出して、オリジナリティを出すことに挑戦しています。お客様との価値創造についてのプロセスをいかに論文に落とし込めるかが勝負です。

理科大MOTが企業にもたらす教育的価値

若林 理科大MOTの学生はみな社会人です。働きながらグラデュエーションペーパーを書くことに意義があります。井田さんが仕事との両立に苦労しながら論文を書く姿を、同僚や後輩、そして会社の経営層が見ています。井田さんが菊池さんにアドバイスをします。そのプロセス全体を通じて、芝浦メカトロニクスという企業の教育的な価値になります。理科大MOTで学ぶ価値は、成績や取得単位ではなく、グラデュエーションペーパーを書く

苦しみの果てにあるものだと私は思っています。藤田相談役、今村社長、井田さんの成長ぶりはいかがですか？

藤田 理科大MOTでの学び、グラデュエーションペーパーの執筆を通じて、物事の見方が広くなり、全体を考えたうえで個別に落としていく思考が非常に磨かれたと思います。会社の業務にフルタイムで戻ってからも、年齢や役職以上の仕事をし、十分にリーダーシップを発揮してくれていると思います。

今村 井田さんは今、理科大MOTで学んだことを社内実践してくれていると思います。井田さんは元々、自分の考えを持っていましたが、理科大MOTで学んだことで自身の考えを説明するのが格段に上達しました。弊社では大勢の社員が参加するWeb会議があるのですが、井田さんは説得力のあるストーリーと効果的な見せ方で持論を展開しています。井田さんを通じて理科大MOT効果が広がることに期待しています。

世界と対等と戦うには 視野を広げる必要がある

若林 最後にそれぞれのお立場からメッセージをいただけますか？

藤田 井田さんが理科大MOTで学んだことは本人にとっても、会社にとっても大きな効果がありました。井田さんが担当する部門、そして会社全体の業績は非常に好調であり、井田さんが貢献していることは確かです。井田さん、菊池さんと理科大MOTで学ぶ社員が何代か続いていくと理科大MOT的な考え方が学んでいない社員にも広がり、そういった風土が育まれていくことに非常に期待しています。

今村 私は理科大MOTで人生の師に出会ってほしいと思います。若林先生はもちろんのこと、同期の仲間たち、そして先輩や後輩。「自分もこういう人になりたい」と思える方との出会いが人生を変えていきます。菊池さんはグラデュエーションペーパーの執筆で大変ですが、ぜひ残りの貴重な時間で人生の師に出会ってください。

菊池 せっかく理科大MOTという場所で学ぶ機会をいただき、素晴らしい先生と環境で学べてい



井田琢也さん

芝浦メカトロニクス株式会社 メカトロニクスシステム事業部副事業部長兼開発部長。2021年3月修了。
1995年に芝浦メカトロニクス株式会社の前身の東芝精機株式会社に入社。現職はチップボンダーと呼ばれる半導体製造装置(後工程)など事業部製品開発の責任者。



菊池勉さん

芝浦メカトロニクス株式会社 ファインメカトロニクス事業部ファインメカトロニクス装置統括部 統括副部長。2021年入学。
1999年に芝浦メカトロニクス株式会社に入社。洗浄装置向けの技術開発、製品開発職を経て、現職の半導体製造前工程向け装置製造部門のマネジメントに従事。

るので、最大限自分のものにして社内を持ち帰って、貢献したいです。まずは、グラデュエーションペーパーを書き上げて卒業することを目指して、がんばっていきます。
井田 私は本当にタイミングよく、自分に必要なことを理科大MOTで学ぶことができました。日本の技術者の多くは私と同様に技術だけを続けて、経営層になっていく方も多いと思います。でも、世界と対等に戦うには視野を広げる必要があります。理科大MOTに通い、視野を広げ、学びを得る人がたくさん出てきてほしいですね。
若林 国内の半導体業界はシェアの低下が続いていますが、井田さん、菊池さんの活躍でぜひ逆転してほしいです。本日はありがとうございました。



若林秀樹 技術経営専攻 専攻長

履修モデル

修得した科目については、入学年次により授業科目名称等が異なる場合があります。

気付きの連続で 視野を広げた2年間



修了生

井田琢也 さん
芝浦メカトロニクス株式会社

理科大MOT入学への道のり

入社してからの25年間は産業自動化の機械の設計開発を担当し、ここ5年ほどはグループリーダーからマネジメントへと管理職としての役割が大きくなりました。弊社はアジアを中心に北米など海外にも拠点があります。現地の技術者と話す時に、私は手がけている半導体製造装置のことがばかり話してしましますが、彼らはキャリアの積み方、開発する機械の投資回収のスピードなど、話題がとても幅広いのです。自分の視野が狭く、技術者を続けているだけだと限界があると危機感を覚えていました。

そんな折、会社から理科大MOTで技術経営を学ぶ話をいただき、自分自身の関心に合致していたので入学を決めました。

理科大MOTでの学び

授業で印象的だったのは、数十人もの著名な経営者のお話を直接聞きする「実践リーダーシップセミナー」でした。最初は気後れて緊張していましたが、次第に慣れて質問できるようになりました。みなさん丁寧に質問に答えてくれます。自分の感じた疑問は堂々と伝えらばいいと実感しました。

理科大MOTの学生はみな社会人であり、業種も幅広いので、幅広い視点から深い議論ができる。非常に面白くて、貴重な仲間と出会えました。授業後の1時間ほどは学生同士で神楽坂で食事をしますが、そこでも議論です。とても濃密な1時間。毎回、参加するメンバーが変わるのでさまざまな視点を感じられます。授業後の交流も、交通の利便性の高い神楽坂という立

地だからできたことだと思います。

理科大MOTのグラデュエーションペーパー

グラデュエーションペーパーのテーマは「半導体製造装置の価値と競争力」に関する研究でした。漠然とした問題意識をゼミの仲間との徹底的な議論で明確にできました。

グラデュエーションペーパーの方向性を説明する秋の中間発表会では、半導体業界でも著名な先生が出席され、「半導体装置の『価値』を技術的なスペックだけでなく、その装置が生み出す半導体パッケージを使う自動車やスマートフォンのメーカーの側も含めたサプライチェーン全体で見てはどうか」と助言をいただき、改めて視野を広げる大切さを感じました。

理科大MOTで学んだ成果

理科大MOTでの学びの大きな成果は、俯瞰的に物事を見られるようになったことです。自分が担当する製造機械だけでなく半導体の製造工程全体で開発を考え、さらには世界的な市場での製品の競争力についても考えるようになりました。

また、同僚や後輩への助言が変わりました。お客様への提案資料について、以前は技術者が書いたものを技術者の視点で確認していましたが、資料を読むのが経営層であれば、技術論ではなく、別の視点が必要だと助言しています。理科大MOTでの学びが役立っています。

非常に良い時機に理科大MOTに通えたことで、私の人生は変わったと実感しています。

修得年次	区分	授業科目名称		
1年次	コア科目	組織進化論		
		イノベーション志向型マーケティング		
		経営管理会計		
		イノベーションを生む企業文化		
		グローバル化と知識交流		
		世界の中の日本とアジア		
		意思決定の経済分析		
		イノベーション志向型競争戦略		
		リーダーシップと倫理		
		グローバル戦略・組織論		
1年次	トラック科目	経営管理会計2		
		研究開発組織のマネジメント		
		ベンチャービジネス論		
		イノベーションの歴史		
		ビジネスで成功するための戦略		
		デザイン思考		
		データ分析による意思決定		
		サービス戦略とイノベーション		
		チャネルマネジメント		
		実践リーダーシップセミナー1-2		
1年次	演習科目(選択)	実践リーダーシップセミナー2-1		
		MBA寄附講座		
		MTI寄附講座		
		アドバンスドリーダーシップ		
		国際企業法務と戦略		
		2年次	トラック科目	アドバンスド戦略マネジメント
				業界分析
				アドバンスドマーケティング&ブランド戦略
				先進的ものづくりとサプライチェーンマネジメント
				コーポレートファイナンスと資本市場
デジタルマーケティングとソーシャルメディア				
2年次	社会連携科目			サービス関連産業特別講義
				プロジェクト1
				プロジェクト2
				プロジェクト3
		プロジェクト4		

社会知を結集し、示代(ジダイ)のニーズに応えていく

現場を知る経験豊富なメンバーの知を結集した発展・進化型の教育課程連携協議会を立ち上げ社会のニーズに合わせたプログラムを発信していきます。

教育課程連携協議会委員 (2022年4月)

茂浦口 明雄 氏

日清紡マイクロデバイス株式会社 電子デバイス事業統括本部
事業企画本部 戦略計画部 部長

▶ 本学位課程を修了した者のうちから、担当副学長と専攻主任(以下「専攻主任」という。)が協議し選出した者
2号委員

佐久間 嘉一郎 氏 竹田 浩三 氏

株式会社日立国際電気 九州旅客鉄道株式会社
代表取締役社長執行役員 執行役員東京支社長

▶ 当該専門職学位課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するもの関係者であって、当該職務の実務に関し豊富な経験を有する者のうち、担当副学長と専攻主任が協議し選出した者
3号委員

堂野 敦司 氏

日本銀行政策委員会室審議役

▶ 国又は地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者のうち、担当副学長と専攻主任が協議し選出した者
4号委員

肥塚 浩 氏

立命館大学大学院 経営管理研究科教授・
同研究科研究科長、同大医療介護経営研究センター長

▶ 専門職大学院の必要性を理解する学外の学識経験者又は有識者のうち、担当副学長と専攻主任が協議し選出した者
5号委員

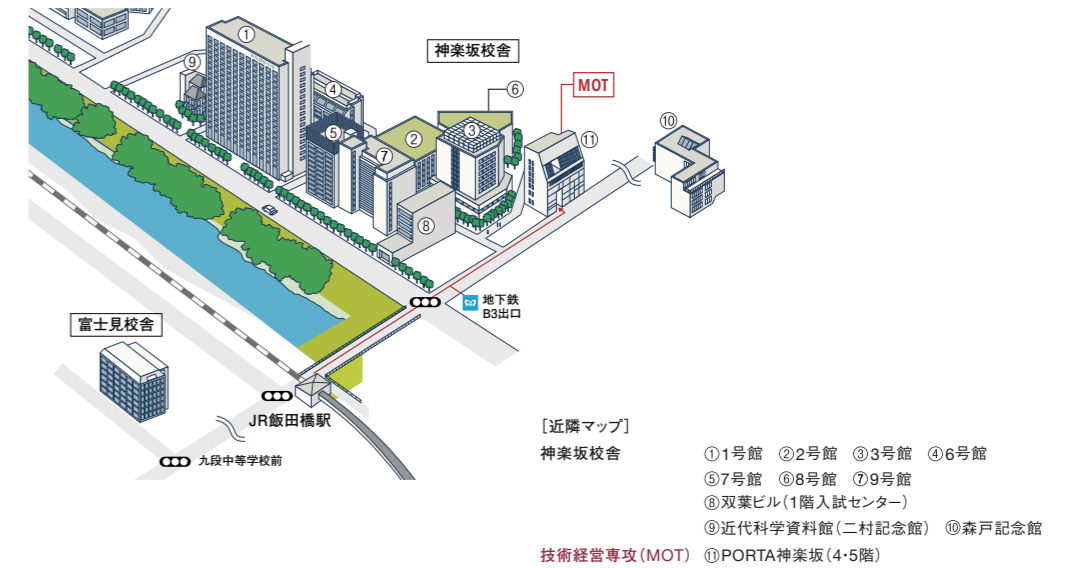
坂本 正典 氏

東京理科大学 名誉教授

▶ 専門職学位課程の認証評価機関の委員等の経験を有する本学に所属する者のうちから担当副学長が推薦した者
1号委員

神楽坂キャンパスMAP

授業を実施する神楽坂キャンパスの最寄りの駅は、鉄道5路線が交差する飯田橋駅となり、駅から徒歩5分以内の場所に学び舎があります。



「建学の精神」 理学の普及を以て国運発展の基礎とする



【経営学研究科技術経営専攻3つのポリシー】

※予定であり変更することがあります

アドミッション・ポリシー [入学者受入れの方針]

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、建学の精神と実力主義の伝統に基づき、本学の教育研究理念のもと、

1. 学士課程、修士課程又は博士課程を卒業・修了後に一定の実務経験(概ね10～15年の実務経験又はその年数と同等である優秀な業績)を有し、専門分野で高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を身につけようとする人、専門分野で自ら課題を発見し解決する意欲のある人、高度専門職業人に必要な能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して学修を行う意欲のある人。
 2. 実践知や学識及び能力をもとに社会においてグローバルな視点を持って活躍しようとする意欲のある人。
- を多様な選抜方法により広く求める。

(一般入学試験)

多様性の確保に重点を置き、大学での専攻分野を問わず、本専攻の特性に見合う実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力、及び表現力で優れた素質を持ち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選抜する。

(企業推薦型特別入学選考)

企業又は職能団体等が本課程の人材育成に関する目的及び各種方針に賛同し、企業又は職能団体等が優秀と認める人材であり、高度な実践知を含む専門能力、分析力、論理力、思考・発想力、マネジメント力、及び表現力で優れた素質を持ち、本課程の人材育成に関する目的を理解する人を、書類審査、面接等により選考する。

カリキュラム・ポリシー [教育課程編成・実施の方針]

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、多様なバックグラウンドを持つ学生に対して、高い実践的な専門性と倫理観、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人である起業家・CXO※になる人材を育成するという目的を実現するため、「科学技術」及び「経営」の実践的融合を図り、『東京理科大学専門職大学院教育課程連携協議会』と連携し、社会ニーズ・シーズに応えるとともに、「グローバルな視点」及び「高い職業倫理観」を育成する授業科目を開発し、教育課程を編成・実施する。

- (1) 急速に変化する社会ニーズ・シーズに応え、課程の人材育成に関する目的に基づき起業家・CXO※等の構成要素に則した教育領域8領域(CEO/COO的知見教育領域、CTO的知見教育領域、CMO的知見教育領域、CFO的知見教育領域、CIO/CDO的知見教育領域、起業家の知見教育領域、その他CXO・ステークホルダーの知見教育領域、CHRO的知見教育領域)を設けて授業科目を開発する。「複数領域で共通する基盤的知識・知見の修得が可能であり、且つ学生間の知識・知見のレベルを標準化する基盤科目」、1領域、又は複数領域融合の社会ニーズを先読み専攻の目的、ディプロマ・ポリシーの到達に合致した高度な知見の修得が可能な「専門科目」、「社会連携科目」及び学生個別の到達目標を実現する「演習科目」に区分し、開発した授業科目を重点的・効果的に配置し、教育課程を編成・実施する。

- (2) 「基盤科目」、「専門科目」及び「社会連携科目」では、常に社会状況を捉え、より高度で最新の実践的専門知識を身に付けるため、教育領域に重点的・効果的な授業科目を配置する。

- (3) 「演習科目」では、人材育成に関する目的を踏まえた学生個別の目的を達するために、以下の授業科目を配置する。

①「プロジェクト」(「プロジェクトエクササイズ」、「プロジェクト1～4」)は、演習指導教員の指導下で、実践の理論化、企業調査活動、経営者等の各種インタビュー等により、学生個々の課題の明確化、仮説の設定、課題解決案を構想し、それを推し進め、論証・実践能力を総合的に身に付ける。その成果物として、学生個々の課題に応じた最終成果物(グラデュエーションペーパー)を作成する。

②「ケーススタディ」(「実践CXO・起業家ケーススタディ1～3」、及び「実践ケーススタディ」)は、学生・教員が共に経営者、起業家、修了生の講演等を聴講し、個々の思考力や妄想力で討論を行い、他者とのバックグラウンドの差により思考力や妄想力等の能力・知見に差異があることを理解し、学生個々の更なる思考力や妄想力等の総合的な能力・知見を涵養する。

- (4) 演習指導の過程では、高度専門職業人として専攻が定めディプロマ・ポリシーに示す知識・能力を育成する教育を行う。

※CXO: CEO、COO、CTO、CFO、CMO、CDO/CIOなどの企業活動における業務や機能の責任者の総称

ディプロマ・ポリシー [修了認定・学位授与の方針]

技術経営専攻(専門職学位課程)においては、理学と工学が一体となった「科学技術」、「経営」の実践的融合、「グローバルな視点」及び「高い職業倫理観」の育成を図った教育を通じて、高い実践的な専門性と倫理観、国際的視野を持ち、社会(産業界等)の急速な変化に敏速かつ革新的に対応し、社会を牽引することができる高度専門職業人である起業家・CXO※になる人材を育成することを目的として、本専攻に2年以上在学し、以下の知識(知見)・能力を最終成果物(グラデュエーションペーパー)により測り、本専攻の定める40単位を修得した学生に対して修了を認定し、技術経営修士(専門職)の学位を授与する。

1. 技術経営及びその関連分野についての高度な実践的専門知識。
2. 技術経営及びその関連分野における高度な実務実践能力。
3. 「科学技術」と「経営」の実践的融合により、「理論」と「実践」の両面からイノベーションに係る課題を把握・分析することができる能力。
4. 既存の科学技術研究の成果を基礎に、イノベーションに係る新たな仮説を設定することができる能力。
5. 技術開発から市場化へのプロセスにおける一連のイノベーションを担い、課題解決することができる能力。
6. イノベーションに係る課題の解決策を戦略的に提案・論証することができる能力。
7. 起業家・CXO※に必要な高い職業倫理観を持ちつつ、高度な実践知と卓越した能力をもとに、グローバルな視点を持って適応し活躍できる能力。

※CXO: CEO、COO、CTO、CFO、CMOなどの企業活動における業務や機能の責任者の総称

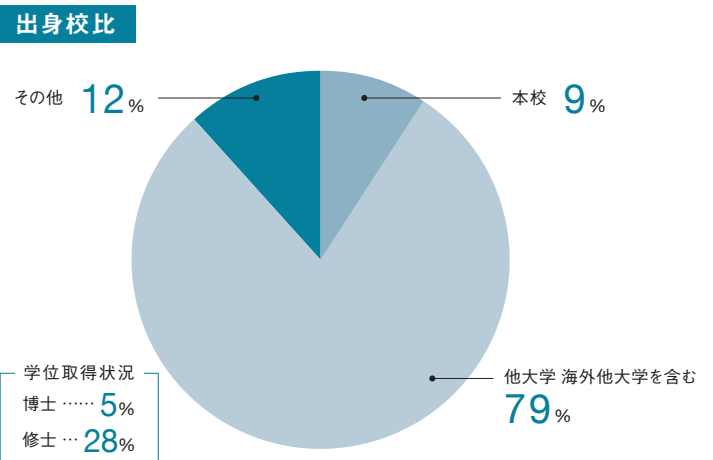
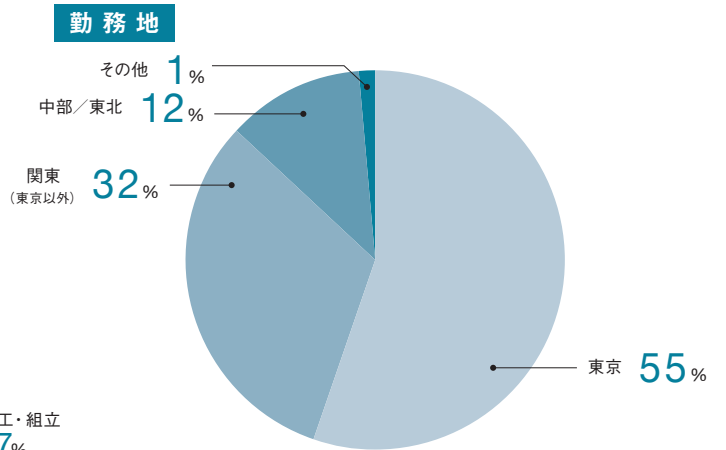
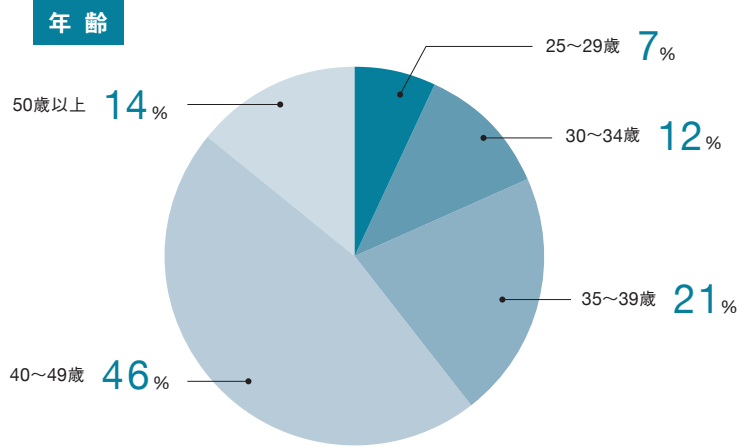
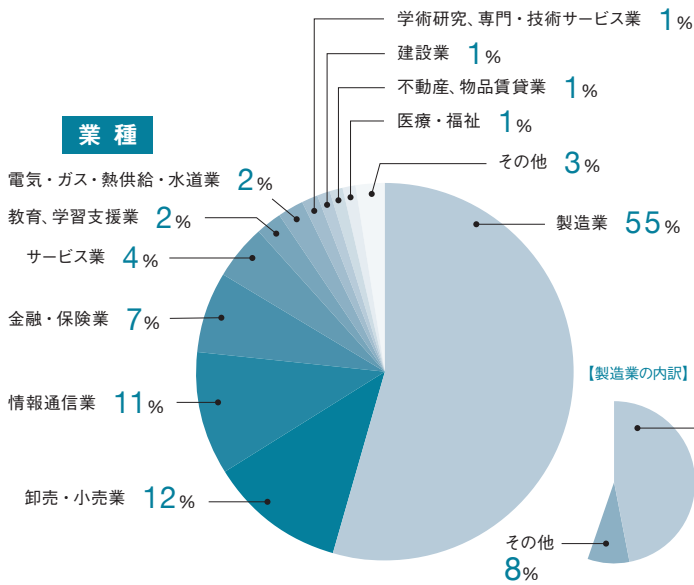


MOT DATA

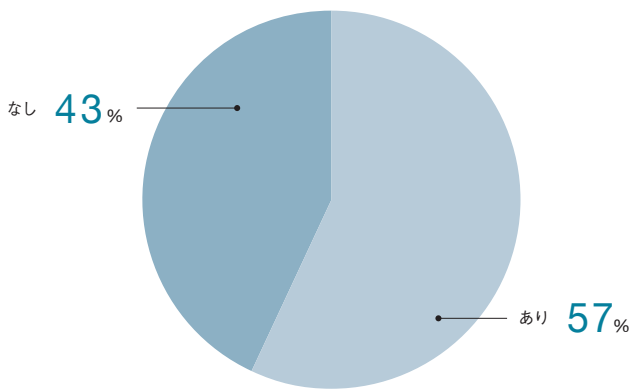
データで見る東京理科大学MOT見聞

在学生データ(2021年度・2022年度入学生)
86名(社会人比率100%)

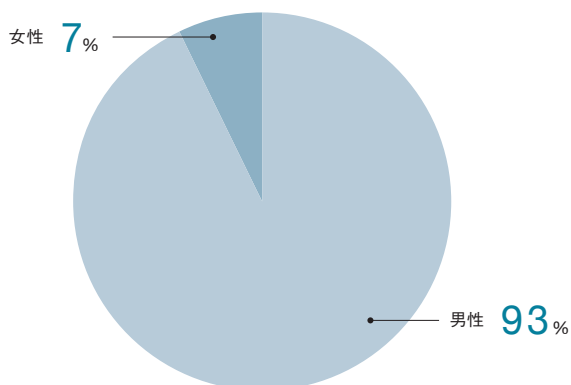
MOTの魅力の一つは、社会で重要な責務を果たしながら、学業を修了できることです。さまざまな年齢・業種の社会人がグローバル時代を生き抜くために必要な力を培っています。



授業料等(初年度納付金)企業宛請求



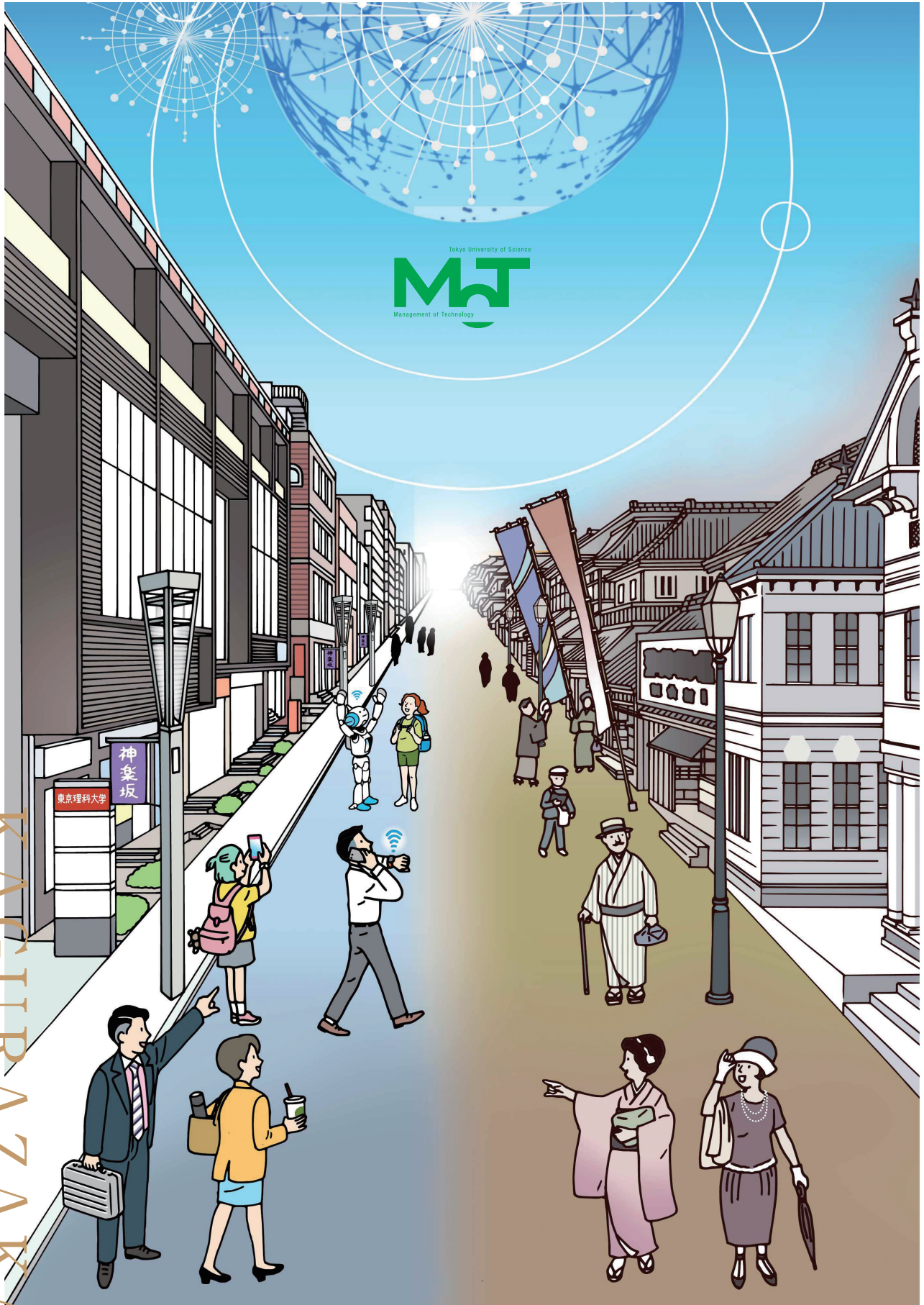
男女比



これまでの主な出身企業例(順不問)

ニコン	富士フィルムビジネスイノベーション	産業技術総合研究所
総合警備保障	日本郵船	学研
セコム	スリーエム ジャパン	第一製薬工業
レオス・キャピタルワークス	日本マイクロソフト	大興電子通信
沖電気工業	日本電信電話	カルビー
メルコホールディングス・グループ	エヌ・ティ・ティ・データ	ジャパンディスプレイ
(パファロー、パイオス、CFD販売)	東日本電信電話	大成建設
太陽誘電	日本アイ・ピー・エム	安藤・間
日立国際電気	日本電計	三菱UFJ銀行
CKD	武田薬品工業	芝浦メカトロニクス
日清紡ホールディングス	凸版印刷	オムロン
(日清紡マイクロデバイス®、日本無線、日清紡プレーキ)	大日本印刷	ブイ・テクノロジー
IHI	アステラス製薬	昭和電工
キャノン	エーザイ	みずほ証券
ソニーグループ	ファイザー	ビジョナリーホールディングス
本田技研工業	キリンホールディングス	サンケン電気
日産自動車	日本たばこ産業	大丸松坂屋
ダイセル	シスコシステムズ	イオングループ
富士フィルム	住友ベークライト	パラマウントベッド
	東芝	など
	東芝テック	

※新日本無線は、日清紡マイクロデバイスに社名変更



KAJURAZAKA
innovations

